第３回「原子力フォーラム茨城」開催報告（感想文）

○　第３回「原子力フォーラム茨城」に参加して

特別講演をしていただいた櫻井よしこ氏は、国家基本問題研究所として、新聞への意見広告にて度々正論を主張され、常々感服共鳴をしております。今回は、国際情勢について広くご見識を伺い知ることができました。①ウクライナ情勢では、ロシアの侵攻を予見していたかのようなお話でした。②中国の習近平主席の狙いは、世界を共産党思想一色にしたいという野望を果物のザクロに例えた分かりやすいお話でした。③エネルギー問題では、再生エネルギーの太陽光は国土面積あたりの設置面積では、日本は世界１位になっているが、予備電力を考えると CO_2 排出量を減らすことになっていない。④原子力は、エネルギー問題の根幹をなすもので、安全保障を考えると必要性は必然、常に政治論になっているが、科学技術論にて進めるべきである。⑤原発の再稼働では、原子力規制委員会の問題で遅遅として進んでいない、三条委員会をいいことにして権力を強行している。ゼロリスクを唱え、審査途中で項目を追加するなど審査に７年以上もかかっている。その他、広い分野の見識を知ることができ、特に、櫻井よしこ氏は、国力を想う気持ちが強いことに対して頼もしくも心強く感じました。

再稼働が沈滞している他の要因として、原子力規制委員会が独断で決めた３０km 圏内の避難計画策定にあると考えます。本来、避難計画は周辺住民が事故時に余分な放射線被曝を受けないように決められるもので、安全審査における最大事故時に想定される放射線線量マップなどを参考として策定されるものと考えます。線量マップは、立地条件や気象条件によって変わるものであり、それを全ての原発立地地域に一律に、根拠もなく、３０km と決めて、地方自治体へ策定を勝手に押しつけています。この広範囲に及ぶ避難計画策定は、地方自治体業務に負担をかけ、強いては住民へあたかも住民を避難するかもしれない不安を駆り立て、原発推進を躊躇させる原因の一つになっています。

本来、原発立地の周辺住民を避難させるようなことは、あってはならないことです。福島第一原発事故の教訓から、今まで想定されなかった事柄まで盛り込んで、世界一厳しい安全基準が設定され、審査されています。原発再稼働が遅れているため、我が国は火力発電所の追加燃料費として年間３．６兆円もの外貨が流出していると講演で指摘されていました。原子力は、エネルギーセキュリティとして重要な位置づけにあり、カーボンニュートラル達成にも必要不可欠であると再認識しました。（水戸市在住、８０代男性）

○　第３回「原子力フォーラム茨城」に参加して

今回、知人からのお誘いにより参加させていただきました。色々と貴重なお話を聞くことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。

石川議員による講演においては、議員が所属する委員会等においての活動をお話しいただき、日本の様々な課題、例えば、現在起きているガソリン代の高騰に対処するための課題に真剣に取り組まれている事がわかりました。私たちの日常生活に係わる課題について色々と勉強されており、地元茨城のためにもぜひ頑張っていただきたいです。

櫻井よし子さんによる特別講演では、日本のエネルギー問題について、現状と今後の取り組み方などを分かりやすく聞くことができました。環境問題において、目先の問題だけではなく未来を考えて、メディアや新聞等の情報だけ鵜呑みにするのではなく、しっかりと自分自身が勉強し、何ができるかを考えていくことが大事だと思いました。そして日本の組織の縦割り分業での効率の悪さなどを実感しました。ウクライナ問題も国際的な状況等、各国間のしがらみなども具体的に聞くことができてよかったです。

櫻井さんのテレビ等での印象とは違い、気さくな人柄であり、1時間の講演もあっという間に過ぎてしまいました。有意義な時間をありがとうございました。今後また開催の予定があれば、ぜひ、参加したいと思います。（大洗町在住、５０代女性）

○　シンポジウムを聞いて

大量消費社会から抜け出し、地球環境と資源を守ることが第一だ、と大きく社会通念が変化した中で、エネルギー問題は、私のような子育て中の母親にとっても、今後子ども達の生きる世界と関わる無視できない事柄だと、興味を持ってシンポジウムを拝聴した。

東日本大震災の前と後で､原子力に対する国民の目が大きく変化したのは周知の通りであるが、今回、櫻井よし子さんや石川昭政議員から、これまで知らなかった先端の技術、最新の趨勢についてお聞きして、興味深く、前向きになれる時間であった。

お話を伺いながら、心の中で、自分や子ども達の生きる世界と日本について真剣に考える貴重な時間だった。日本の地理的条件や世界情勢とエネルギー問題は切り離せず、資源の乏しい日本であれば、地熱や風力、太陽光で埋め合わせられない部分を化石燃料や他国に頼るほかにない中で、技術で生み出せる上、比較的クリーンな原子力は、選択肢として外せないと思いながら、やはり、人知の及ばぬ災害のある中では、不安は拭いきれない。そして今、櫻井よし子さんのお話にあった、ウクライナへの侵攻が不幸にも現実となった。シンポジウムの時点では、よもや現実となると思わず、直前には回避されると信じていたのに。

私の心に二つの思いがある。家計は圧迫されてきており、また、日本が住みよい国である為には、潤沢なエネルギーを確保し、豊かであらねばならないのかも知れないという思い。一方で、改めて、この世界は不確実であるという思い。脅しなのかわからないが、原子炉が戦争で標的にされる場面を目の当たりにすれば、原子力自体の安全性を高める事の他に、人間の愚かさからも守られねばならない現実もあると思った。

私が今思うのは、原子力は、まだこれからも安全や安心を高めてゆけるものであり、選択肢として、研究を前向きにするべきだということ。福島の廃炉や核のゴミについては、それ以上に研究してゆくべきということ。そして何より、人間は人間の生活を見直すところから始めないといけない、ということである。（大洗町在住、３０代女性）